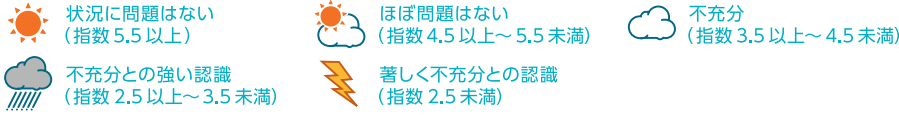


一線級研究者や有識者約1,500名による 第4期科学技術基本計画期間中(2011~2015年度)の我が国の 科学技術イノベーションの状況変化についての意識



57の質問から我が国の科学技術やイノベーションの状況を包括的に把握



大学・公的研究機関における 研究活動の基盤に対する危機感の増大

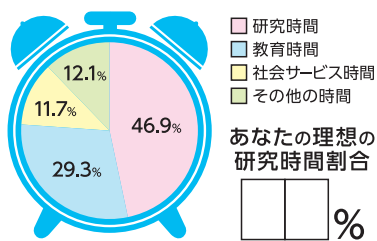


科研費の使いやすさやURAの育成・確保の進展 課題達成に向けた各種取組において一定の進展

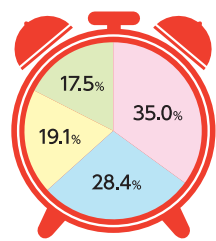


一線級の大学教員の 職務活動時間の理想の配分

理想の職務時間割合 (NISTEP 定点調査 2015)



現実の職務時間割合 (FTE調査, 2013年)



注:理想の職務時間割合は、NISTEP 定点調査 2015の深掘調査における大学・公的研究機関グループのうち大学の研究者への質問の結果。
(出典)現実の職務時間割合:科学技術・学術政策研究所、調査資料-236、大学等教員の職務活動の変化-「大学等におけるフルタイム換算データに関する調査」による2002年、2008年、2013年調査の3時点比較-(2015年4月)

研究時間割合の確保や 研究活動に集中するために有効な手段

- 1位 研究室のマネジメント補助を行う人材の雇用・充実(研究室専属の秘書等)
- 2位 部局レベルのマネジメント(学部・学科運営、入試問題作成、予算・設備管理等)を専門に行う人材の雇用・充実
- 3位 組織内の役割分担(教育専任教員と研究専任教員による分業等)の実施
- 4位 獲得した公募型資金の研究に専念できるよう、教育業務を代替してくれる教育スタッフの確保
- 5位 機器や薬品等の維持管理を行う技能者の雇用・充実

回答者は2つのグループから構成
(同一の回答者に毎年同じ調査を継続して実施)

イノベーション俯瞰グループ(約500名)

- 産業界等の有識者
- 研究開発とイノベーションの橋渡し(ベンチャー、産学連携本部、ベンチャーキャピタル等)を行っている方
- シンクタンク、マスコミで科学技術にかかわっている方
- 病院長など

大学・公的研究機関グループ(約1,000名)

- 大学・公的研究機関の長(82大学、26公的研究機関)
- 世界トップレベル研究拠点の長
- 最先端研究開発支援プログラムの中心研究者
- 大学・公的研究機関の部局や事業所の長から推薦された方(82大学、26公的研究機関)